

平成 26 年 10 月 31 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
 代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 27 年 3 月期 中間期決算について
 ～通期業績目標達成に向け、概ね計画通りの進捗～

当行の、平成 27 年 3 月期中間期の連結中間純利益は 289 億円、同キャッシュベース¹ 中間純利益は 329 億円、単体中間純利益は 193 億円となり、通期業績予想である連結当期純利益 550 億円、キャッシュベース¹ 純利益 620 億円の達成に向け、概ね計画通りの進捗となりました。

損益の状況(連結)

(単位:億円)

| | 平成27年3月期 中間期(6か月) (a) | 平成26年3月期 中間期(6か月) (b) | 増減 (a)-(b) |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------|
| 業務粗利益 | 1,111 | 1,002 | 108 |
| 経費 | △700 | △658 | △42 |
| 実質業務純益 | 410 | 344 | 66 |
| 与信関連費用 | △50 | △3 | △46 |
| 中間純利益 | 289 | 272 | 16 |
| キャッシュベース ¹ 中間純利益 | 329 | 317 | 12 |

¹ 純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

- **業務粗利益**は、前中間期の 1,002 億円から 108 億円増加し、当中間期は 1,111 億円。資金利益は、調達コストの改善に加えて、消費者金融ファイナンス業務の貸出増加に伴う収益が伸長したことなどにより、前中間期比 55 億円増加し、605 億円。非資金利益は、ALM 業務の収益の改善に加え、市場関連取引からの収益も堅調であったことなどにより、前中間期比 53 億円増加し、505 億円。
- **経費**は、引き続き効率的な業務運営を推進する一方、要員の増強や広告展開など、業務基盤の拡充を図るために必要な経営資源投入の結果、前中間期の 658 億円から 42 億円増加し、当中間期は 700 億円。
- **与信関連費用**は、消費者金融ファイナンス業務での貸出増加に伴う貸倒引当金の繰り入れなどにより、前中間期の 3 億円(費用)から当中間期は 50 億円(費用)。
- **連結中間純利益**は、経費および与信関連費用の増加を業務粗利益の増加が上回ったことから、前中間期の 272 億円から 16 億円増加し、当中間期は 289 億円。
- **単体中間純利益**は、業務粗利益の増加や与信関連費用の改善などから、前中間期の 155 億円から 37 億円増加し、当中間期は 193 億円。
- **総資産**は、平成 26 年 3 月末の 9 兆 3,211 億円から 1,309 億円減少し、平成 26 年 9 月末は 9 兆 1,901 億円。貸出金は平成 26 年 3 月末の 4 兆 3,198 億円から 187 億円増加し、平成 26 年 9 月末は 4 兆 3,386 億円。

資本および資産の質

- 内部留保の着実な積み上げと不良債権の削減により、連結コア自己資本比率(バーゼルⅢ、国内基準)は、平成 26 年 3 月末の 13.58%から平成 26 年 9 月末は 13.81%へと改善。
- 不良債権残高は引き続き減少し、不良債権比率は平成 26 年 3 月末の 3.81%から平成 26 年 9 月末は 2.61%へと改善。また、保全率も 95.7%と引き続き高い水準を維持。

平成 27 年 3 月期通期業績予想

- 平成 27 年 3 月期の通期業績予想については、中間期の業績および今後の見通しなどを勘案し、平成 26 年 5 月 8 日に公表した連結当期純利益 550 億円、単体当期純利益 340 億円を据え置き。なお、今回新たに通期の連結経常利益を 600 億円の見通しとした。

当期決算の詳細については、以下当行 URL(「決算・財務情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: http://www.shinseibank.com/investors/ir/financial_info/quarterly_results/index.html

以上

お問い合わせ先
新生銀行 IR・広報部 高橋、江口
Tel.03-6880-8303